

研究会	「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」金曜セミナー 第5回
テーマ	東アジア地域主義の実証・理論分析
報告者	寺田 貴（アジア研究機構准教授）
日時	2007年12月14日（金）16時20分～17時50分
場所	早稲田大学19号館609教室
参加者	参加者：天児慧（アジア太平洋研究科教授）、浦田秀次郎（同研究科教授）、深川由起子（政治経済学術院教授）、各フェロー、院生など。

内容：

本セミナーは、G-COEプログラムにおいて発表者が担当するプロジェクトの概要説明が主な目的であることから、発表者は、主にこの研究の意義と目的、分析アプローチを包括的に述べた。特に、東アジア地域主義研究の実証研究を国際関係理論の枠組みを使って進める意義として、他地域の統合・制度主義研究と比較可能になることが強調され、実証面での東アジア地域特有の事象の抽出、理論面での地域主義研究で発展してきた枠組みのさらなる進展という2つの目的が示された。

このプロジェクトは、東アジア地域概念の派生、地域市場統合の進展、東アジア地域機構構築の生成と発展、東アジア安全保障共同体の可能性という4つの観点から、東アジア地域主義研究の特徴を示し、理論と実証のバランス、理論的分析枠組みの複眼性など、新しい国際関係分析の視点を提供することで、当該分野の先駆的研究を目指し、地域主義研究、広くは国際政治経済理論の発展に寄与することを目的としている。発表者は、このプロジェクトの最も重要な点は、世界の多くの国際政治経済の専門家がこれまで発展させてきた地域主義・地域統合研究と乖離させず、その国際的な発展の文脈において学術的な貢献をすることだとし、そのため、比較を可能にする普遍的な理論枠組みの適用が重要であることを強調した。たとえば、国際関係理論の枠組みは、1) 国際関係における個別的史実・事象を一般化し、2) 国際関係における個別的史実・事象の規則性（外交行動パターン、政策の方向性など）を見出すことで、他の類似する先行研究（時代の相違や国・地域の相違など）の個別的史実・事象との比較が可能になると主張している。

発表者自身がこれまで行ってきた「太平洋」、「アジア太平洋」地域主義に関する実証研究を紹介しながら、地域主義を分析する主要な理論的枠組みとして、1. 構成主義（地域概念の発生、地域概念の社会化（Socialisation）、協力推進への地域事象への共通理解・認識の有無に重きを置く）、2. 現実主義（物質的優位性に基づく指導国家の役割と影響力を「構造」として重視、例えば地域機構の提供者としての役割に基づく議論を展開する）、3. 自由制度主義（共通の利益の派生・存在の重要性に着目し、どの国家がどのような利益を持って地域主義に参画するか、要求者の説明に重きをおく）の3つが国際的に広く認知されてきている、と提示された。発表者は、さらに、参加アクターに「共有される」対象の違いに基づき、構成主義の枠組みを地域アイデンティティや地域概念を重視するアプローチと 価値観・規範の共有と協力の関連性を説くアプローチの2つに分けることができ

るとし、それぞれ、東アジアの地域主義・地域統合の情勢をどのように説明できるかについて、簡単に紹介した。

発表者は最後に、これら4つの分析に基づき、東アジア地域主義の生成発展の特徴・固有性を示し、他の地域主義との違い、特に同じアジア諸国を含むAPECに代表される「アジア太平洋」地域主義との相違を示すことで、何が、どの点で「新たな」な地域協力体制の発生なのかを明確にし（実証面）、それぞれの分析枠組みの長所・短所を列挙し、一つの理論的枠組みに基づく分析ではなく、あらゆる使用可能な枠組みを組み合わせ、国際関係事象を分析していく「複合分析アプローチ」の有用性を示す（理論面）意義を再度強調、発表を締めくくった。

質疑応答では、浦田教授より自由貿易協定（FTA）の分析に関して、独立変数、従属変数がそれぞれ何であるのか、天児教授より、アジア主義など歴史・哲学的な要素が、いかに提示された理論枠組みに組み込まれるか、といった質問が出された。これらに対し、発表者は、東アジアにおいて2000年以降に見られるFTAネットワークの拡大を従属変数、差別的なFTAを許容する通商政策規範の変化（構成主義分析）を独立変数としているとし、さらに大国（日本と中国）主導である現実主義的側面も分析には加味すべきだと付記した。アジア主義については、域内国がそのような哲学的な意味合いを共有し、現実には、政治指導者達が地域組織・統合への決定を下す際に広く影響があったとの因果関係が明確になったのであれば、重要な説明変数として考慮するが、現在のところ、それを明確に論じた論考・証拠は、発表者の知る限り存在しないため、分析枠組みには入れていない、とした。

（寺田貴 記）